

# アオサナエ



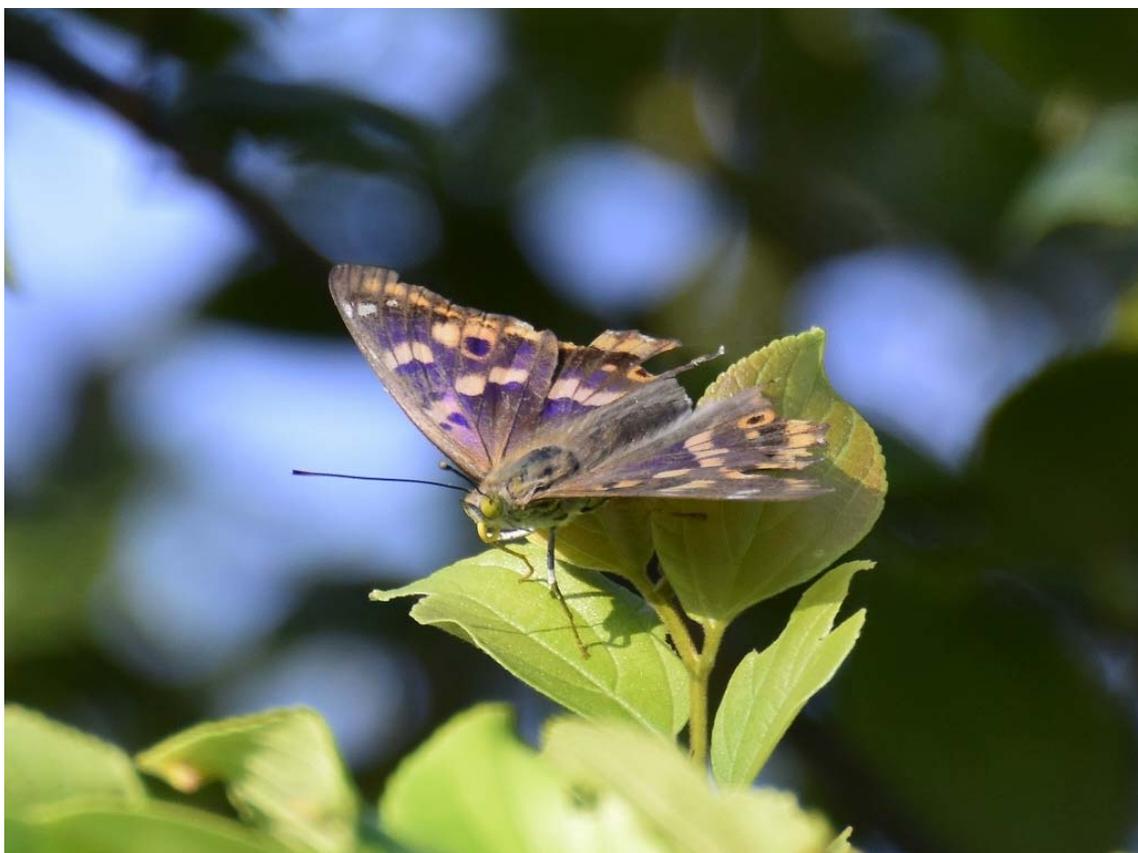
<b>区分</b>	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
<b>分布</b>	本州・四国・九州に分布し、日本のみで生息する固有種。 <sup>(3)</sup>
<b>生態</b>	平地や丘陵地、低山地の清流に生息する流水性トンボ類で、幼虫は砂れき状の河床を好む。幼虫期間は 2~3 年程度で、成虫は 5 月下旬~6 月にみられる。未熟な成虫は羽化した水域から離れた丘上の林によくみられ、成熟すると、オスは川辺の植物や石、砂地に止まって縄張りを形成する。 <sup>(1)(2)</sup>
<b>配慮事項</b>	河川改修工事により幼虫の生息環境となる河床が大きく変化する場合は、可能な範囲での生息環境の維持または新たな生息環境の創出などの配慮が考えられる。

(1) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、石田昇三ほか、1988

(2) ネイチャーガイド 日本のトンボ、尾園暁ほか、2012

(3) 日本昆虫目録 第 2 巻 旧翅類、日本昆虫学会、2016

# コムラサキ



<b>区分</b>	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
<b>分布</b>	北海道・本州・四国・九州に分布する。 <sup>(1)</sup>
<b>生態</b>	主な生息地は河川敷に多く生育するヤナギ類の林であり、公園内樹木や街路樹として植えられたヤナギ類を利用することもある。幼虫はヤナギ類の葉っぱを食べて成長し、成虫は主にヤナギ類やクヌギ、コナラなどの樹液を吸汁する。なお、コリヤナギおよびイヌコリヤナギの葉っぱは幼虫の餌にはならない。 <sup>(1) (2)</sup>
<b>配慮事項</b>	河川における生息状況を把握した上で、伐採箇所を決定する、改変箇所へヤナギ類を植樹するなどの配慮が考えられる。 <sup>(1)</sup>

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

(2) フィールドガイド日本のチョウ、日本チョウ類保全協会、2012

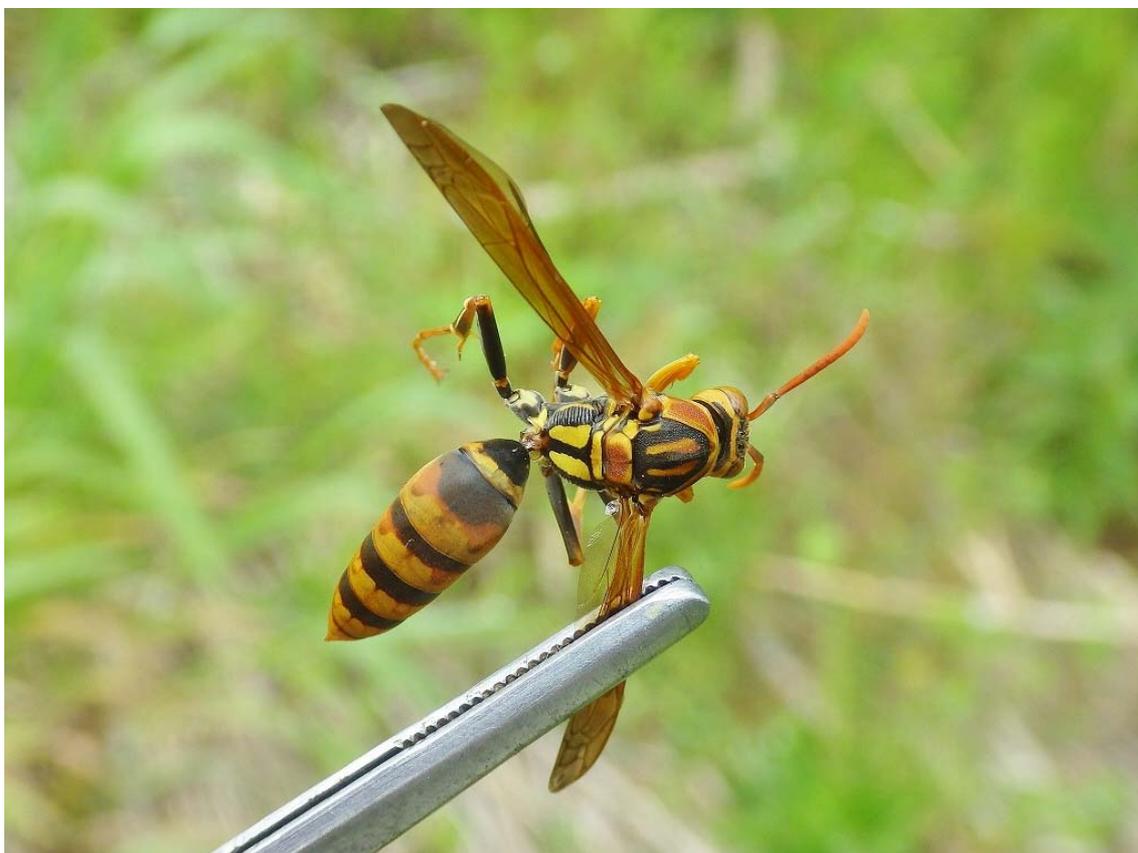
# ツマグロキチョウ



区分	環境省レッドリスト:絶滅危惧 IB 類 宮崎県版レッドリスト:準絶滅危惧
分布	本州、四国、九州に分布する。 <sup>(1)</sup>
生態	河川の堤防・高水敷、田畑の周辺、鉄道線路付近など、幼虫の餌であるカワラケツメイが生育する明るい草原や荒れ地に生息する(幼虫の餌はカワラケツメイのみ)。なお、カワラケツメイは先駆的な植物で、明るい草原や河原、造成跡地などの荒れ地に生育する植物である。植生が進行し、ススキなどが増えてしまうとカワラケツメイは消滅してしまうため、氾濫原や人為的な影響が強い場所が本種の生息環境となることが多い。 <sup>(1)</sup>

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

# ヤマトアシナガバチ



区分	環境省レッドリスト:情報不足
分布	本州・四国・九州のほか、対馬・大隅諸島に分布する。 <sup>(3)</sup>
生態	平地や低山地に生息し、草本の葉の裏や樹木の細い枝、時には人家の軒下や壁にも営巣する。女王バチや働きバチ、オスバチで1つの巣を構成する社会性昆虫類で、5～9月頃までみられる。10月～翌春まで女王バチは越冬する。 <sup>(1)(2)(3)</sup>

(1) 日本の新社会性ハチ、高見澤今朝雄、2005

(2) レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 5 昆虫類、環境省、2015

(3) 日本産有剣ハチ類図鑑、寺山守・須田博久、2016